

PRAEVIDENTIA DAILY (5月6日) 特別号

昨日までの世界：ドルの軟調が続く

昨日は、日英が休場だったこともあり主要通貨は全般的に小動きだったが、中では米長期債利回りは若干ながら持ち直したにも拘らず、ドルが全般的に軟調な展開となったのが特徴的だった。ドル/円は東京時間早朝、先週金曜の雇用統計後のドルの反落やウクライナ情勢緊迫化を受けた下押し圧力を引き継いだほか、タカ派的な黒田日銀総裁発言（消費増税後の景気下押し圧力は我々が想定していた通りか、むしろ予想よりも若干小さい）を受けた日銀の追加緩和期待の後退などもあって、102円を割り込み、一時101.87円へ軟化した。但しその後NY時間に発表された米ISM非製造業景況指数が55.2と、前月の53.1やや市場予想の54.0を上回ったことから、米長期債利回りの持ち直しと共に102円台を回復、早朝の下落前の水準に戻ったかたちだ。なおISM非製造業景況指数では、雇用指数が53.6から51.3へ低下しておりあまり良くない内容だった。

豪ドルは、豪3月住宅建設許可件数の予想比下振れ（前月比-3.5%）に加えて、中国HSBC製造業PMIも48.1と速報値（48.3）および市場予想（48.4）を下回ったことから、下落する局面がみられたが、その後は米ドルの全般的な軟調に支えられたためか、下落前の水準を回復している。

ユーロも、欧州委員会がユーロ圏の成長率、インフレ率見通しを若干下方修正し、ECBへの間接的な圧力となり追加緩和期待に繋がってもおかしくなかったがびくともせず、対ドルで1.38ドル台後半での横這いが続いた。欧州委は15年分の見通しにつき、前回2月と比べ、GDP成長率を+1.8%から+1.7%へ、CPIを前年比+1.3%から+1.2%へ下方修正、インフレ率はECBの中期的な物価安定の定義である「2%を若干下回る」水準を大きく下回っている。

南アランドは、カギソ製造業PMIが47.4と市場予想（50.2、前月50.3）を下回ったほか、1Q失業率も25.2へ上昇（市場予想24.7、前期24.1%）するなど南アの経済指標が悪かったことに加えて、欧州時間の株価下落もあって、対ドル、対円で0.6%程度下落した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	-0.00	-0.00	+0.00	+0.02	+0.02	+0.00	+0.2	+0.0	-0.3	-0.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.0	+0.02	+0.01	-0.00	-0.01	+0.01	+0.02	-0.3	+0.2	-0.8	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.0	+0.01	+0.01	-0.00	-0.02	-0.00	+0.02	+0.0	+0.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.0	-0.01	-0.01	-0.00	-0.06	-0.04	+0.02	+0.2	+0.0	+0.0	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	-0.01	-0.01	-0.00	-0.06	-0.03	+0.02	+0.2	+0.0	+0.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	-0.00	-0.00	+0.00	+0.00	+0.02	+0.02	+0.2	-0.3	+0.0	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：RBA のハト派化リスク

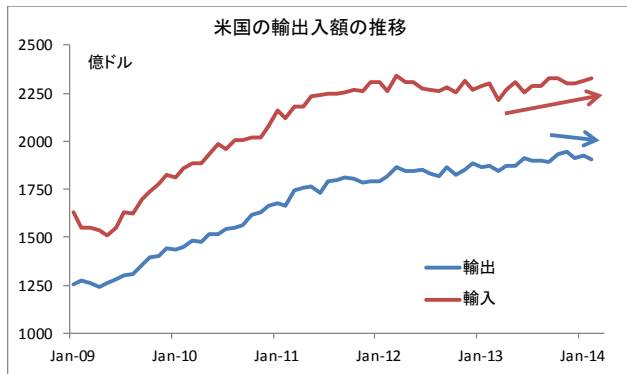
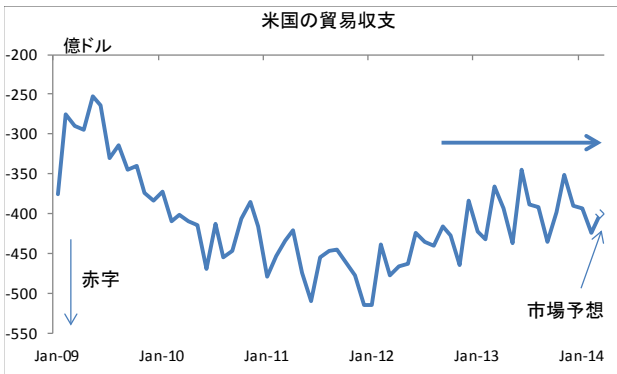
きょうの注目通貨：AUD↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 3 月貿易収支・豪ドル	10：30	+12.0 億	+10.0 億	
豪 RBA 金融政策決定	13：30	2.50%	2.50%	
英 4 月サービス業 PMI	17：30	57.6	57.8	
米 3 月貿易収支・ドル	21：30	-423 億	-404 億	
カナダ商品貿易収支・カナダドル	21：30	+2.9 億	+3.0 億	
Wheeler・RBNZ 総裁発言	6：30			

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日も本邦はまだ GW 中のほか香港も休場で参加者が少なく、材料も比較的少ない。ドル/円は、昨日は特段ウクライナ情勢に関する追加的な悪材料はなかったにも拘らず一時 102 円割れへ下落するなど、ドルの重さを意識させる展開で、本日も引き続き、102 円を挟んだ横ばい圏内の動きに変わりはないが、どちらかというドル軟調な展開が予想される。唯一の米国材料として貿易収支がある。米国ではシェール革命を受けて、将来的にエネルギーの輸入が減少して輸出が増加、そして国内でのエネルギーコスト低下から製造業が復活し製造業の輸出も増加し、結果として貿易収支が大きく改善に向かい、ドル高を招く、という見方があるが、足許そうした兆候は全くみられておらず、貿易赤字は 2012 年初の -514 億ドルからは縮小しているものの足許は横ばいで、むしろ輸入が増加、輸出が減少傾向にある(下図を参照)。このため、多少市場予想から振れてもあまりドルに対する影響度は大きくないだろう。

豪州では RBA 金融政策決定会合が予定されているが、最近の経済指標はどちらかという予想比下振れが多く、また 5 月 13 日に発表予定の連邦予算案は緊縮的で景気抑制要因となる可能性が高い(下表を参照)。メインシナリオは「金利の安定期が当面続く」という最近の中立スタンス継続だが、リスクとしては景気認識がやや下方修正され、ハト派的な内容となる方向だとみられる。このため豪ドル/米ドル相場は、4 月 10 日の 0.9461 ドルをピークとした緩やかな下落基調が継続するだろう。先行きの豪金融政策および豪ドルの方向性にとっては、今週木曜発表の豪雇用統計で失業率が更に低下しないかの方がより重要だ。前月 3 月分では失業率が 6.1% から 5.8% へ予想外に急低下したが、今回 4 月分では再び 5.9% へ上昇する予想となっている。



前回 RBA (4/1 日) 以降の豪州の主な材料

タカ派化材料	<p>純輸出：2 月貿易黒字が予想比上振れ</p> <p>住宅投資：2 月住宅ローンが予想比上振れ</p> <p>雇用：3 月雇用者数が予想比上振れ、失業率が予想比大幅低下</p>
ハト派化材料	<p>住宅投資：住宅建設許可件数は 2 月、3 月分と連続で予想比下振れ</p> <p>個人消費：2 月小売売上高が予想比下振れ</p> <p>企業サーベイ：3 月 NAB 企業信頼感が前月から悪化</p> <p>インフレ：1QCPI が予想比下振れ</p> <p>純輸出：鉄鉱石価格が再び急落</p> <p>財政政策：アボット政権が財政緊縮策を検討</p> <p>金融市場：ウクライナ情勢の緊迫化</p>

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社

金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号

一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641